

## 廃車

滋賀大学経済学部 近藤 豊将

ホームページを開設した。授業に関する情報を、受講者に対して効率良く提供することを主目的としている。講義ノートをPDFファイルにして、授業のページにアップロードしておき、学生達に各自でダウンロードして授業に持参してもらうようにしたのだ。これは予想以上に便利である。大量の講義ノートをこちらで印刷したり、運搬したりする必要がなくなったからだ。

そこまでは良かったのであるが、愛用していた台車に活躍の場がなくなってしまった。失業した彼は、現在、私の研究室に引きこもり、ニートと化している。かつては獅子奮迅ししふんじんの働きで私の仕

事を支えてくれた同志パートナーであり、私としても格別の愛情を持って、

労りいたわ、愛でめ、慈しみいつく、尊たつとび、そして信頼関係を育はぐんできた間柄であるだけに、部屋の中でしょぼくれている彼の姿を見るのは胸が痛む。そこで、彼のために新天地を考案してみた。

一・他の先生に養子に出す。他に台車を必要としている先生がおられるなら、引き取ってもらうことで状況を改善できる。その先生にとっても、優秀なパートナーをゲットできるし、彼にとつ

ても新たな活躍の場が得られるからだ。

二・オークションにかける。教授会の場での公開オークションである。高値での落札を期待できるかもしれないが、奴隷市場での売買を彷彿ほうふつとさせ、印象が悪い気もする。学部長に怒られるのではないかという点も懸案事項である。

三・捨て子にする。人目に付くところに放置することで、真に必要なとってくれる人が自然に引き取ってくれるだろう。引き取り主を相対あいたいで探す場合よりも、取引費用もかからなくて済む。

四・大学全体で飼育することにする。幸い、長期休暇中でもエサを与える必要などはないので、さほど手間暇てまひまはかからないはずである。

決して、狡兎死こうとししたので良狗りようくを煮にて喰くおう⑤というわけではない。私のライフワークである世直し活動の一環だ。関係者全員にとつて好ましい状況改善策を探求しているだけなのである。これは、経済学の観点からも興味深い類型クラスの問題なので、経済学者の血が騒ぐのは当然ではないか。読者諸賢におかれましても、興味のある方はご一報いただければ、ニートのパトロン…ではなく、

世直し活動へのご貢献をお願いしたいと希求いたします。

(平成二十三年四月二十四日)

\*狡兔死して良狗烹らるこうと りようくに

すばしこいうさぎ(狡兔)が死ねば、獵犬(良狗)は不要になって煮て食われる。転じて、重用されていた部下も、能力を発揮できる場や対象がなくなると無価値と見なされるという意味で用いられる。もとは「史記」に由来する故事成語で、敵国が滅びると、軍事に尽くし民衆からも人気のある功臣は、かえって邪魔者扱いされて殺されることを喩えたもの。たと